新山協ニュース

発行者　井出秀雄　発行所　新潟県山岳協会
〒940　長岡市学校町3－11－7　藤井信方　TEL 0258－32－4835

最近の登山事情に思う②

筑木　力

四、登山にストックが必要か

山でのストックブーム、今様ファッションの花盛り、低山でも平坦地でも山の中ならストックまたはストック。以前はハイキング・スティックとか登山杖と呼ばれ、重荷を背負って悪場を通過するときにバランスの補助に利用したが、そうした実用面以外にもう一つ、アルペン的な格好を付けるといったアクセサリーの要素もあった。今はこの方が増幅して現在のような状況を招いている。

街中ではかなりの高齢者でも杖を突いて歩いている人は見かけない。それは多分格好が悪いからなのかもしれないし、それ以上に元気なお年寄りが増えているからに違いない。山では血気盛んな青・壮年でも堂々と杖を突いている。その方が格好いいからだ。これはまさに平成時代の逆転現象ともいえる。

五、登山精神の貧困化

道路は良くなり、施設も整い、登山装備も進歩して、登山する条件が大きく向上した。また街の書店にはガイドブックやハウツーものが溢れ、登山技術の初歩を学ぶには好都合になっている。しかし奥が深く内容の濃い古典ものはほとんど見かけられない。一部の人を除いて読まれないためであろう。私達の先輩が残してくれた偉大な足跡を、それらの著書を通じて追体験することにより登山精神の充実伸長を図ることが大変だと思うが、いまその方面が疎かになっているようにみえる。

六、山菜採りの遭難

クマに襲われる。ヘビに噛まれる、崖から転げ落ちる、山の中で道に迷ったり急病になる、誤って毒キノコや毒草を採って食べるなど、シーズンになるとこのような事故が増える。登山には直接関係ないものも多いが、同じ山中で起るだけに無関心ではすまされない。本人の身から出た錆と言ってしまえばそれでおしまいであるが、何とか防ぐ手立てはないものか。もちろん本人が気を付けるのが一番必要であるが、地域の生活共同体である市町村や集落で、もっと知恵を出し合って事故防止にとり組んでいいのではないか。

七、これからのヒマラヤ登山を考える

以上の一から六までの項目で批判的口調の強い私見を述べて些か気が引けるので、今度は最近得た情報をもとに前向きの意見を申しあげたい。

ヒマラヤ登山の世界にも、社会主義体制の崩壊が大きな影響を及ぼしたという、そこに市場経済が入り込み、旧ソ連軍が使用していた大型ヘリコプターや、軽量で多容量のロシア製酸素ボンベがヒマラヤに流出した。また厳しいグレード教育を受けた旧ソ連のクライマー達が、新らしいガイドとしてヒマラヤに登場した。さらに九十年代に入ると、経済力を付けたアセアン諸国が競って登山隊を八千メートル峰に送り、インドネシアとマレーシアは今年五月に、それぞれ自国のエベレスト初登頂者を出して意気盛んである。だが国際的にみれば、エベレストの登頂者はやがて延べ千人に達しようとしていて、一般ルートからの登頂にはもはや登山史的価値はなくなったとされる。

ではこれからヒマラヤ登山はどこへ向かうのか。国内で百名山ブームが広がっている一方で、ヒマラヤでは公募登山が増えている。でもヒマラヤの七・八千メートル峰が、日本百名山なみにポピュラー化してしまうことはないと思うが、「大衆化」と「ビジネス化」がさらに進むのは間違いないだろう。

そんな時代に高峰の難ルートへの単独登攀を追求するソロ・クライマーは別として、ヒマラヤン・トレッカーだけで終わりたくない人達は、何を目指せばいいのか。一つの方向としては、そこへ出かけて行くパーティが、従来以上に現地における山岳の歴史と文化などを理解する事ならびに、異民族間のコミュニケーションをできるだけ図る事の二つが考えられるのではなかろうか。そしてそのためには当然言語能力が重要な働きをすることを忘れてはならない。

新年会・協会創立50周年記念祝賀会案内

日時　1998年1月18日(日)
　　12時開宴
会場　長岡市台町
　　ホテルニューオータニ
　　電話　0258－37－1111
会費　10,000円（記念誌含）
申込　〒940
　　長岡市学校町3丁目11－7
　　藤井信方
　　新潟県山岳協会
　　電話　0258－32－4835
ハガキにて申込願います。

理事会開催案内

新年会に先立ち同会場にて、理事会を開催します。
役員、理事、委員各位は10時00分までに参集願います。

テーピング実技講習会に参加して③

悠峰山の会
佐々木　敏　郎

三。テーピングにおける注意事項

(1)一般的な注意

①医師の診断…これは、再発予防の目的でテーピングする場合の大前提です。

一般にテーピングは、捻挫肉離れ、打撲傷に対して行なわれます。

②腫れの有無…腫のある関節部位にテーピングをする時には、腫の逃げ場を残しておくことが大切です。

③循環障害・神経障害…テーピングをした部分や、そこから先の部分に循環障害を起こしてしまったり、しびれてしまっては逆効果です。このため、例えば筋肉部分にテープを一周させる場合には、筋肉を緊張させておく必要があります。

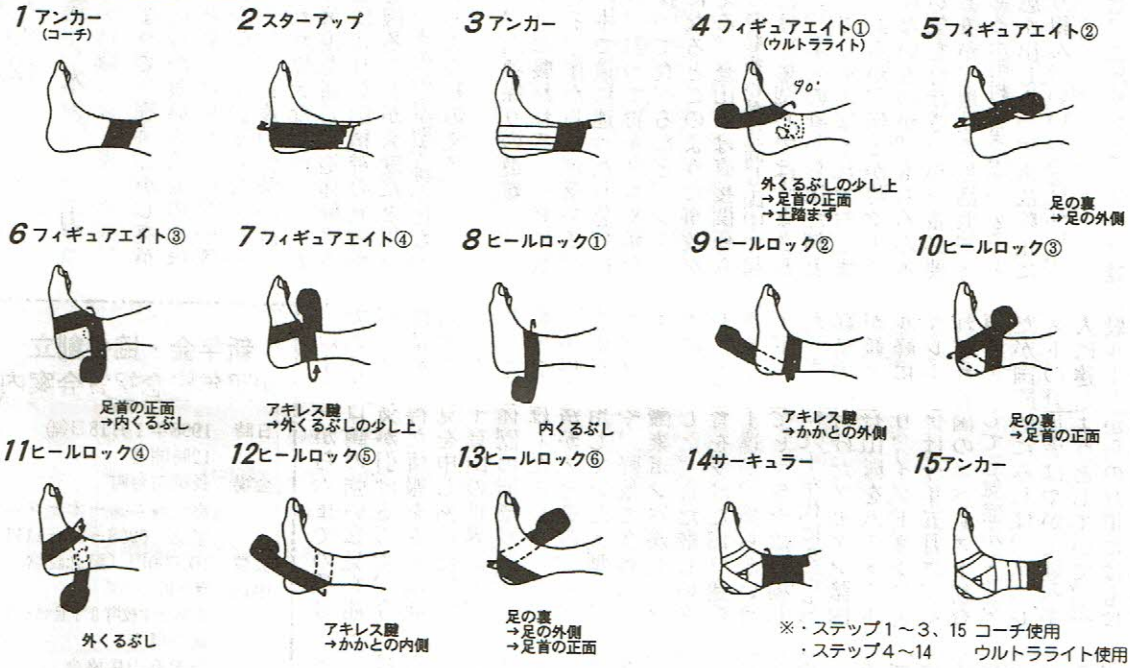
④関節の動きと靱帯の位置…テーピングを行なう場合、無造作にテープをぐるぐる巻くのではなく、どの動きを制限すれば良いのかを把握しておく必要があります。

また、補強すべき靱帯の正確な位置をよく確かめておくことも大切です。

⑤テーピングを巻いておく時間…予防・再発防止のテーピングでは、皮膚への影響を考えて原則的には運動の30～1時間前にテーピングを行ない、運動後30分以内にこれをとるようにします。午前と午後に運動を行なう場合には、貼り直すほうが良いでしょう。応急処置のテーピングでは、安静を保つという前提で1～3日くらいテーピングしたままでもよいでしょう。

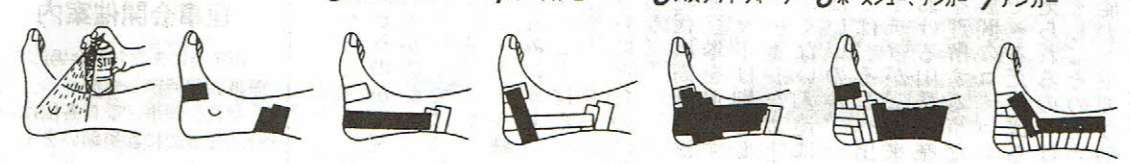
⑥テーピングの方法…まず基本的なものをしっかりと修得した上で、その基本から悦脱しない範囲で競技の種類、その競技でのポジション、そして選手の状態に合わせて、方法・貼る角度・テープの貼り具合・固定の強さなどを応用するとよいでしょう。

足首のテーピング



※・ステップ１～３、15 コーチ使用
・ステップ４～14　ウルトラライト使用

応急処置（オープン・バスケット）



配付資料より別掲

創立五十周年記念誌の編集にあたって

創立五十周年記念事業の課題が理事会で提案され、本年四月の評議員会で、記念事業実施の承認を得る。程なく記念誌編集委員が任命される。

編集委員には、井出秀雄、遠藤家之進正和、北村猛、杉本敏、鈴木敏雄、田辺信行、土田幸雄、横山征平の八名がその任にあたる。

五十年という時間は、戦後激動の時代から、四季を通じ山を舞台に、そこで培ったロマンと越後人のど根性、この歴史の資料蒐集から始めるが草創期の資料が少ない。

二回、三回と編集会議を重ねる間に、何かが見えてくる。

方針、方向づけ、記念誌か或いは記念史かで戸惑いもあったが「新潟県山岳協会五十周年記念誌」の表題で五十年を忠実に辿ることとし、掲載する項目を次の様に予定した。

創立五十周年記念事業
新潟県山岳協会の変遷
第一九回新潟国体
新潟県境全踏査縦走
国内登山・海外登山
国際交流
昌元山岳会と姉妹協定
青海省登山協会と兄弟協定
記念登山
海外、チアジャジマ峰
県内、蒜場山
追悼
渡辺万寿太郎、藤島玄　他
冬山覚書　他出版物
加盟団体紹介
協会規約、役員名簿
歴代役員
専門委員会
国体、監督、選手、役員一覧
新潟県山岳協会略年譜

このような各項目で構成する五十周年記念誌で、本の体裁は、B五版、左横書き、中割れ二〇〇頁の予定で作業に入る。

編集委員は、早速、資料蒐集、原稿の依頼と奔走する。

まず山岳協会設立の日は、異論はあるが、ここで、明確にしなければならない。

新潟県体育協会五十年史に、「昭和二二年六月末高頭・冠の両氏を迎え、苗場山において、越後支部発会式を挙行」と掲載され、また、越後山岳創刊号には、「創立総会は苗場山において五月二八日、冠氏・高頭翁を迎え、多数会員出席の上開催した」と掲載されてある。

ここで、五月か六月かの論議となるが、日本山岳会会報第一三九号に越後支部創立総会は六月二八日とあり、高頭翁年表に、二二年六月、七一歳、冠氏と越後支部創立総会に苗場山へ登山とある。

これらのことから、設立の日は、六月二八日と判断すべきであろう。

なぜなら、越後支部創立総会と同時に、藤島玄さんは、新潟県山岳会を発足し、新潟県体育会に加盟する。当時県内の各山岳会は、越後支部へ入会することにより、新潟県山岳会の組織となり、その事務は支部が処理した。これらのことから、昭和二二年六月二八日を新潟県山岳会（新潟県山岳協会）創立の日と定めるのが妥当であろう。

新潟県山岳会の設立から、新潟県山岳協会へ、さらに登山協会へと改称し、昭和三七年十二月二六日、山岳連盟、大学、高体連との大同団結により、新生の新潟県山岳協会の発足となる。

カムチャッカの高山植物 ⑥

むささび会　加藤明文

アントロサケ・カマエジャスメ
（サクラソウ科）

分布：ヨーロッパ　ヒマラヤ
ロッキー　（日本に無い）

モーティルチョルダックはトルバチョク山への第一歩を踏みだす所、上部の離島のような小さな草地にかたまって咲いていた。何もかも日本のトチナイソウにそっくりであるが、この種は日本固有種であるので同じような上記の名にした。ところで日本産は現在ほとんど滅びてしまって礼文島と早池峰山にわずか少数が隠れるように生きている。花の資料にも自生地はカットされ、この花を見た事のある岳人はほとんど居ないだろうと非常に残念に思う。

花の色：白

この変遷の歴史のなかで、新潟県登山祭が生まれ、新潟国体を見事に乗り切り、六八六kmに及ぶ新潟県境全踏査縦走を各山岳会の無私の協力一致により完了したのも、すべて加盟山岳団体会員の一致協力の賜物であろう。

協会の広報誌は、「会報」「越後」から現在、「新山協ニュース」と一二九号を重ね各山岳会と協会とのコミュニテーの場として、その確保に努めている。

また、この県山協広報誌上に掲載された事項は、すべて五十年にわたる歩みでもあり、記念保存すべき事柄で貴重な資料でもある。

協会の組織内には、各担当部門別に専門委員会を設け、指導普及・国体・海外等それぞれ業務の専門組織を確立し運営に当たっている。

国際交流は、韓国昌元山岳会、中国青海省登山協会とそれぞれ姉妹協定・兄弟協定を締結し交流を図り、今回の五十周年記念山行には、日中合同でチアジャジマ峰に遠征、幻の山初登頂と五十周年に花を添えた快挙をなし遂げた。

また、県内の記念山行は、蒜場山で、下越山岳会の創設者、岡田米平氏のご支援によって、下越山岳会員の手により今年九月「米平新道」と命名した立派な登山道の完成を記念し、この登山道開設と、創立五十周年記念に相応しい記念山行が、十月十八日前夜祭から始まり、秋晴れの下で県下各地から参集した一〇〇名余の会員が、既に初冬を迎えた飯豊連峰の展望を余す所なく満喫した記念登山を実施し、チアジャジマ峰、蒜場山ともに創立五十周年の紙上を飾るに相応しい記念山行であった。と報告されてある。

新潟県登山祭は、四十年余の歴史を刻み延々と続いた行事で、各回毎の開催事項は、略年譜に掲載し、高頭祭・弥彦松明登山祭の経緯のみ本文に掲載した。

岳界の転換期のこと、岳連との大同団結こと、この団結により全国称賛を得て見事に終わった新潟国体、続いて実施した新潟県境全踏査縦走など、余すことなくその記録は、掲載した。

また、各山岳会の紹介欄を設け原稿を依頼したが、その原稿が集まらず、督促はするが最後まで頁数が決まらず苦慮した一面もあった。

多彩な活動歴の半世紀を、ここで一冊に纏めるには、まず年譜の整理からはじめる。

草創期の資料が極めて少ない、年月日と項目がおかしいなどなど検索は続く。

先輩から、もっと時間をかけて資料等を蒐集し、より良い記念誌を作るべきだと貴重なご意見等るる頂戴した。

幸い、これら記念誌の記述には物語や小説のような虚構はいらない。その限りにおいて本誌の編集に当たり、できる限り忠実に協会その他の業績をたどった。

用字、送り仮名など部分的に不統一な面もあるが、できるだけ原文尊重の原則を生かしたのでご了承願いたい。

ともあれ、短期間の間に慌ただしく編集せざるを得なかった記念誌である。編集委員は、できる限りの努力はしたが、意を尽してないところや間違い箇所、内容重複など多々不首尾の点は、皆様の暖かいご叱正をお願いし、重々お詫び申しあげ、ご寛恕いただきたいと思う。

ようやくこの記念誌も脱稿し上梓も間近、一月の記念祝賀会当日、皆様にお渡し出来るよう印刷所との連繋を図りながら取り組んでおります。

ただ、この記念誌は、有料で一冊二〇〇〇円の配付価格ですが、会員皆様の深甚なるご理解とご協力を賜りますようお願いする次第です。

最後に会員の一人一人が、この記念誌を手にし、先人が我々に残して下さった山岳協会の五十年の歴史の重みを改めてご理解いただき、この記念誌が今後、新潟県山岳協会充実発展の為に何らかの形で役立つなら幸いと願うところであります。

（編集委員長　鈴木敏雄）

平成９年度12・１月専門委員会行事予定

日　時	行　事　名	会　場	担　当
9.12	新潟県コーチサミット	新潟市	国体
10.1.18	理事会	長岡市	総務
10.1.18	新年会・県山協創立50周年記念祝賀会	長岡市	総務・50周年
10.1.24～	国体予選会場調査	糸魚川市	国体
10.1.24～	北信越国体会場調査	糸魚川市	国体
10.1.	県体協　新年会	新潟市	国体

登山用品専門店
── 信頼できるパートナー ──
大新スポーツ
新潟市東堀６　☎(025)222－3736

登山・アウトドアの専門店
ICI石井スポーツ
新潟駅前店
新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)